

「コロナに勝つ」 西山亭の弁当

伊那市観光 みはらしの湯で販売開始



みはらしの湯で西山亭の弁当を販売するスタッフ

土日限定 反響次第で拡大も

伊那市の第三セクター伊那市観光は19日から、同市西箕輪の日帰り温泉施設「みはらしの湯」で、近くの「羽広荘 西山亭」の弁当の販売を始めた。当面は土・日曜日限定だが、利用者の反応を見ながら拡大も検討していく。

(高木敏雄)

みはらしの湯では新型コロナウイルス感染拡大防止のため、食堂の営業を休止していることから、利用者から「食事をしたい」という要望を受け、同じく伊那市観光が運営する西山亭と協力した。弁当は「コロナに勝つ」との意味も込めて「カツ弁当」に。11月1日にリニューアルオープンした西山亭の料理人が腕によりをかけた弁当を提供する。1個750円(税込み)で数量限定で販売する。販売時間は午前11時から午後2時まで。信州Go To イート食事券、同市プレミアム商品券も利用できる。

初日はスタッフが駅弁のスタイルで販売。予約もあつて次々売れていた。伊那市観光は「みはらしの湯の食堂は現時点では営業再開の見通しは立っておらず、手作り弁当が新たなセールスポイントになれば」と期待している。

伊那署は18日、特殊詐欺被害を未然に防いだとして、伊那市山寺のローソン伊那北店に感謝状を贈った。土屋秀夫署長が同店を訪れ、オーナーの伊藤正則さん(39)に感謝状を渡した。

同店などによると、2日、同市内在住の70代男性が1万円分の電子マネーを購入後、店舗の入り口付近で「電子マネー買いました」などと携帯電話で話しているのを見つけた客から「カードを持って電話している人がいる」と聞いた従業員浦野三姫さん(53)が不審に思い、男性に電話を切るよう促し、同署に通報した。同店は10月に、同署と特殊詐欺被害防止のための声掛け訓練を行っており、その際浦野さんは対応訓練をしていた。浦野さんは訓練と同じ状況だったのですねに対応できた。従業員同士で情報を共有し合っており、今後も気を付けていきたい。伊藤オーナーは訓練は従業員だけでは難しい。これから警察と協力して被害防止に努めたいと話した。(町田陽)



土屋秀夫署長から感謝状を受け取る伊藤正則オーナー



フードドライブに寄せられた食品や募金を有賀秀樹会長に手渡す米沢浩一会長

に手渡した。県内の生活困窮者を支援するNPO法人フードバンク信州に協力し、2018年度から取り組んでいる。今回は新型コロナウイルス感染拡大の影響

県と長野市は19日、県内の10歳未満〜60代の男女10人が新たに新型コロナウイルスに感染したと発表した。2人が中等症で、他は軽症か無症状。県内の感染者は累計1033人となった。うち182人が入院や宿泊施設で療養などしている。重症者は7人。感染が分かったのは長野市と千曲市の各2人、上田市、

塩尻市、飯田市、坂城町、軽井沢町、木曾町の各1人。このうち8人が別の感染者の濃厚接触者などで、他2人の感染経路は不明という。木曾町の20代男性は、既に従業員ら3人の感染が判明している同町福島本町の居酒屋「あきちゃん」の利用者。県は、この店舗を利用した94人を検査し、19日までに20代男性を除く91

特殊詐欺防ぎ 伊那署感謝状

ローソン伊那北店

は結果待ちという。(唐澤翔)